

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの運営理念は「寄り添う心 つながる想い」です。事務所内に掲示しており、日々意識しながら、実践に繋げています。	職員みんなで作ったホームの運営理念「よりそう心 つながる想い」を共有し、「どういう介護がしたいのか?」「どんな介護を利用したいのか?」を管理者と職員はよく話し合いながら、ケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練等地域の方に参加していただいています。地域の行事にも声をかけていただき参加しています。	運営推進会議に町内会長や民生委員等々に参加してもらうことで、地域とのつながりと交流が形として構築されてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さんが施設見学を行い、認知症のついてお話しする機会がありました。今後も認知症の方に対する理解を深めていただけるよう実践していきたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて近況報告を行っています。出席者からいただいた意見をサービス向上に活かしています。	家族も参加し、2か月に1回定期的に運営推進会議が行なわれ、運営への意見を得てケアにいかしている。初年度の今年は年2回の防火訓練を行ない報告しているが、運営推進会議の中で、「消防署の立会いのもとでの訓練の必要性」の意見が出て、2年目に生かそうとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や困った事は市役所の担当者にすぐに確認、相談、指導していただいています。	初年度ということもあり市役所の担当者に相談することが多く、アドバイスをもらったり報告・話し合いを密にしてケアの実践に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルをもとに勉強会を実施しました。	マニュアルがあり、法人内での研修で具体的な学びを実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部で行われている虐待防止の研修会に参加し、復命書の回覧、伝達研修を行いました。	マニュアルはあるが、虐待防止の外部・内部研修はまだ行われておらず、今後行ないたいと計画しているところである。	高齢者虐待防止関連法の学びや、虐待が見逃される事がないように具体的な事例を挙げた研修が行われることを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人共同の研修委員会で学ぶ機会を設けました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧で分かりやすい説明を心がけ、理解・納得していただいたうえで署名、捺印していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時や電話等で意見、要望を聞き取っています。	ご家族には、毎月の事業所からのお知らせや電話で意見や要望を汲み取り、それを職員で話し合い 共有できるよう話し合っている。	利用者・家族の意見や苦情にならないような、「利用に関する想いや願い」などを汲み取るしくみが必要であり、苦情にならない意見などを気兼ねせず伝える手段の1つとして意見箱を設置し、それらをケアや運営に反映出来るシステムの構築が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で意見交換を行い、個人的に話をする機会を設けています。	毎月ユニット会議を行ない会議録に記録している。今後も職員の意見や提案を大切にしていきたいと思い、管理者から職員に常に話しかけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しています。必要に応じて個別に面談の機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から希望のあった研修に参加できるよう配慮しています。同法人内で研修委員会があり、勉強会、研修会を実施し参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の事業所連絡会に参加しているが、職員間は法人内のみでしか持ていません。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前やケアプラン作成時にご本人様から意見や要望をお聞きし、安心を確保するための関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族と連絡を取りあい、入居者様の情報やご家族の意見、要望をお聞きしています。要望はホーム内で検討し、出来る限り実現できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所について入居者様の状態や気持ちを大事にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できるような支援を心がけています。食事の手伝いや洗濯等一緒に行っています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や何かあったときは状況をお伝えし、毎月の様子をお手紙でお知らせしています。情報を共有することで共に本人様を支えて行くように努めています。	共に支える家族とは、話しやすい・言いやすい雰囲気や関係を作ろうと管理者、職員が気をつけており効果がでてきていることが窺える。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人、近所の方等の面会はいつでもお越しいただけるようにしています。行きつけの美容院へ出かけている方もいます。	家族は勿論、知人や地域の人たちの訪問を大切に思っており対応しているが、今後もその方が地域での関係が途切れない方法を工夫していきたいと支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子を観察し、入居者同士の関係を把握し、支えあえるような関係が築けるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、いつでも相談支援に努めるようにしているが、現時点ではその場面がありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とのコミュニケーションを密にし、その時々本人様の思いをお聞きしています。日常の会話や、本人様の行動、表情などからも思いや希望の把握に努めています。	日々の生活で、食事や入浴、作品作りや散歩など共に行動する中で本人は思いや考え、本音を話してくれることがある。その思いに寄り添い、本人の視点に立って意向の把握に努めている。日々の記録や気付きはパソコン入力して、職員で共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅に伺い、本人様、ご家族様から聞き取りをしたり、入居前のサービス事業所等からも情報をいただいています。	入居前には、本人、家族からの申し込み書の記入がなされており、アセスメントを実施する事から始めている。入居前に使っていたサービス事業所、ケアマネからも情報を頂き、本人が安心した生活が送れるように情報収集している。日頃の習慣、癖や得意な事を確認してフェイスシートを作成し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録への記載により一人ひとりの現状の把握に努めています。職員間で違った認識とならないよう、ミーティング等で情報の共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人様、ご家族様へ思いをお聞きしています。カンファレンス・モニタリングはミーティング時に職員全員で行っています。	ケアプラン作成は、本人、家族、個別担当職員、ケアマネ、管理者が参加するカンファレンスで検討し意見を出し合い、現状に即したプランを作成している。又、定期的にモニタリングを行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子、それについてのケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録に職員間で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに対応できるよう心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方に参加していただいたり、行事にボランティアの方を招いたり、地域のお祭りに声をかけていただきました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前に本人様やご家族様にかかりつけ 医を当ホームの協力医療機関にするか、 今まで通りの主治医にするか希望をお聞き しています。今まで通りのかかりつけ医の 方が多いです。	本人、家族の希望するかかりつけ医を尊重し ている。受診については家族対応が基本で あるが、緊急時は職員が代行している。日常 の状態を把握した連絡ノート、緊急時対応の マニュアル等も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支 援している	現在ホームには看護師がおらず、訪問 サービスも利用していません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、又、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には入院先の病院 と情報交換、相談を行い、退院が決まった 時のカンファレンスに出席しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	入院が長期に渡ったり、常時医療行為が 必要となった場合には退去となる旨、入居 契約時に説明・同意を得ています。ケアプ ラン作成時に重度化や終末期の方針をご 家族にお聞きし、またかかりつけ医が往診 できるかどうかも含め相談支援していま す。	現在、終末期状態の入居者はいないが、今 後体制が整えば検討して行きたいと考えてい る。ホームでの暮らしの継続だけでなく、病院 や施設への移行などの支援も家族や主治医 と相談しながら慎重に対応していきたいと、 本人・家族の思いを大切にしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についてのマ ニュアルを整備しています。救急講習や研 修を行っています。	ADE設置時に業者から使用方法を説明時に 実施した。心肺蘇生、人工呼吸など緊急時の 対応の研修会を実施し、基本的な応急手当 や初期対応を理解している。急変や事故発 生時のマニュアルが作成され、何時でも対応 できるように努めている。	今後は全ての職員が入居者の事故 や急変時に応急手当、初期対応がで きるように定期的な訓練の実施が期 待される。実施した時の記録の整理も 必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを整備しています。日中、夜間を想定した避難誘導訓練を行い、近隣住民にも参加していただきました。	事業所内では避難訓練を実施し近隣や自治体の方からも参加してもらっている。同法人施設等の協力体制を築いている。マニュアルを作成し、実践に繋がられるように努力している。	消防署立ち会いのもと、避難訓練の実施が必要と思われる。地域との協力体制作りは今後も引き続き取り組み、地域の避難訓練参加と事業所ごとに災害に備えての備蓄品を備える検討等々を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修会に参加し、伝達、周知徹底しています。ミーティングで職員の言葉かけについて確認あっています。	プライバシーのマニュアルを作成して、一人ひとりの性格や生活歴、長所、短所を把握して職員間で情報を共有している。入居者のプライドや誇りに配慮し、行動に制限することなく、本人の今やりたいことを大事に丁寧に心温まる対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活、会話の中に思いや希望表れることがあるため、見逃さないようにしています。その思いや希望をくみ取り、意向に沿うような支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて日々快適に過ごせるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時はそのように身だしなみを整えています。居室に洗面台があるので、いつでも身だしなみに配慮できる環境です。自室に化粧品を置いている方もいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事作り、盛り付け、配膳、食器拭き、テーブル拭き等、一人ひとりできることを職員と一緒にしています。一緒に食材の買い出しに出かけ、食べたいものを購入できます。	食事作りや盛り付け、配膳下膳、洗浄、後片付け等は入居者と共に行なわれ、一人ひとりの力、能力を引き出している。毎日の献立は入居者と共に考え、必要な食材は一緒に買いに行き、入居者と共に調理している。又、もう一つのユニットでは事前に献立が決められている中で、料理する楽しみを作り出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態で提供しています。食事、水分摂取量のチェックを行っています。食欲のない方には食べやすい形態のものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けは全員の方に行っています。その方の能力に合わせ、介助を行って口腔内の清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄の介助を行っています。	必要な入居者にはチェック表を用いるなどして一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。入居者のトイレはゆったりとした空間で設備も整っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常で体操をしたり、食事メニューを工夫しています。主治医と相談し下剤を服用していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴できるよう配慮しています。時間帯については特に希望がないため、職員都合となってしまっています。	週2回の入浴が出来るように、本人の希望に添った入浴に努めている。浴室内は明るく、状態に応じてリフト対応も可能である。又、補助具も整い安全にゆったりとした入浴ができるように整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通し、寝たい時には寝れる環境づくりをしています。冬場安眠を促すため、足浴を実施していました。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きをファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。薬のセット、服薬の確認は常に2人でダブルチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、得意なことをアセスメントし、希望を把握し希望に沿うような支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に屋外に出れるようになっており、ホーム駐車場を歩くことを日課としている方もいます。季節ごとに行事の一環として外へ出る機会を作っています。地域のお祭りにも参加しました。	一人ひとりの希望に合わせて外出している。兄弟や知人に会いに出かける方もいる。地域の祭りや花見、紅葉などに手作り弁当を持って外出している。日帰りの温泉旅行にも出かけている。周りの環境にも恵まれ、自然が楽しめる地域である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭管理はしていません。個人的にお金を持っている方もおり、買い物支援しています。ご家族が財布を確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかける援助をしています。届いた手紙の返事を書くお手伝いをしました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るすぎず暗すぎずを心がけています。季節に応じた壁面をしています。	共有空間は明るく、気になる臭いもない。加湿器や空気清浄機を設置して環境にも配慮している。季節の飾り付けは入居者と作成し、居心地良い空間作りがなされている。ホールには炬燵があり、心温まる雰囲気を醸し出している。食堂には厨房があり入居者と共に調理したり、匂いや音を感じたりと生活感が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士、居室に行かれ話されていることもあります。畳コーナー(冬場はこたつを設置)や玄関前、玄関外に椅子を置き、一人で、または数人で過ごす空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持ち込んでいただくよう説明しています。ベッドや家具等の配置もご家族と本人様と相談して決めています。	馴染みの物の持ち込みは自由である。全館バリアフリーで心地よく安心して生活が送れるように工夫されている。入居者と家族、職員が協力しながら、その人らしい居室作りを行い、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、廊下には手すりが設置されています。トイレはわかりやすいように配慮しています。		